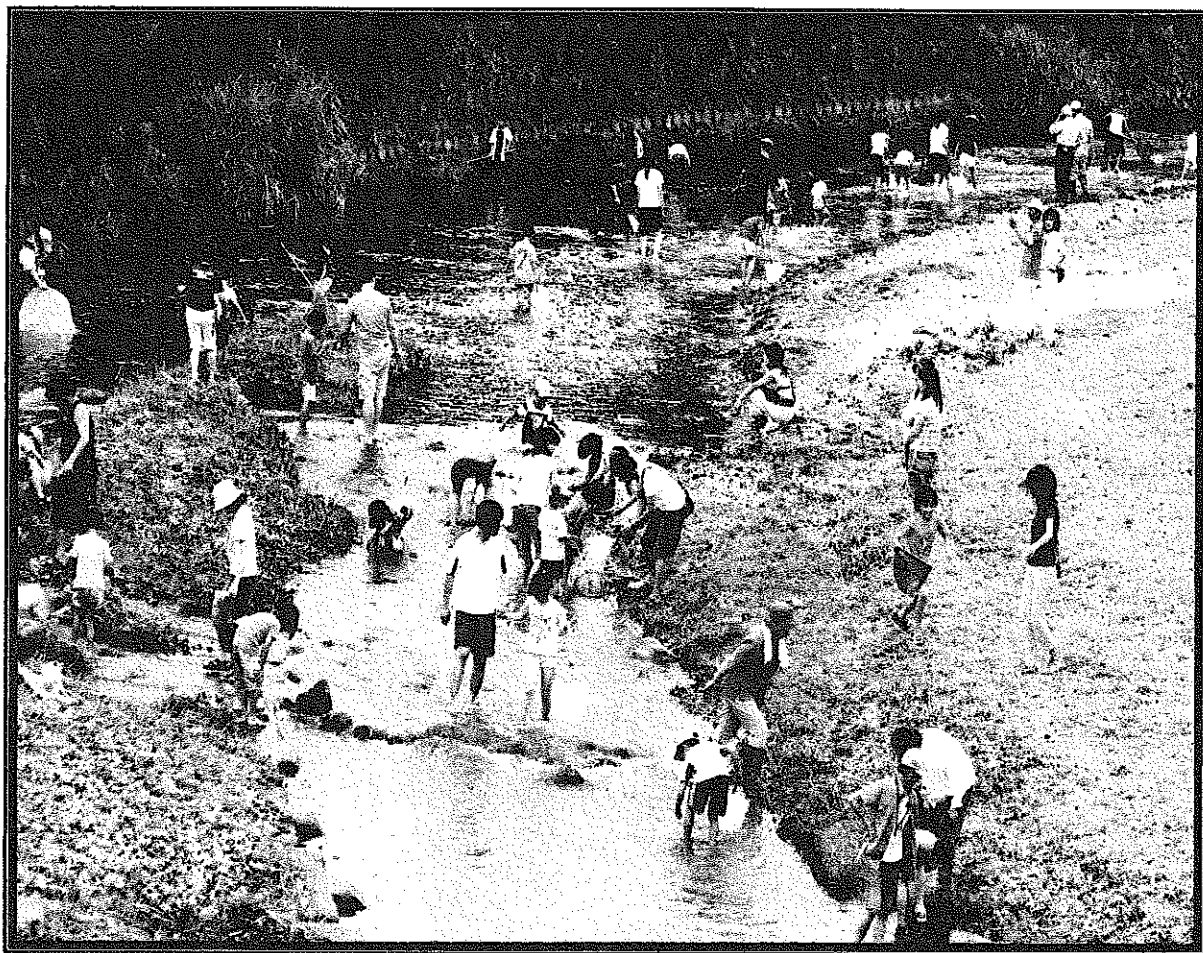


千里川魚類調査 豊中

2007



2008年3月

NPO 法人 とよなか市民環境会議アジェンダ21 自然部会

目 次

1. はじめに	1
2. 千里川の概要	2
3. 調査方法	3
4. 調査結果	5
5. 分析と考察	11
6. まとめ	13
★用語解説・参考文献	14
★調査の手引き	15
★参加者募集チラシ	16
★調査スタッフの感想	17
★調査協力者の感想	18
★調査風景（写真）	20

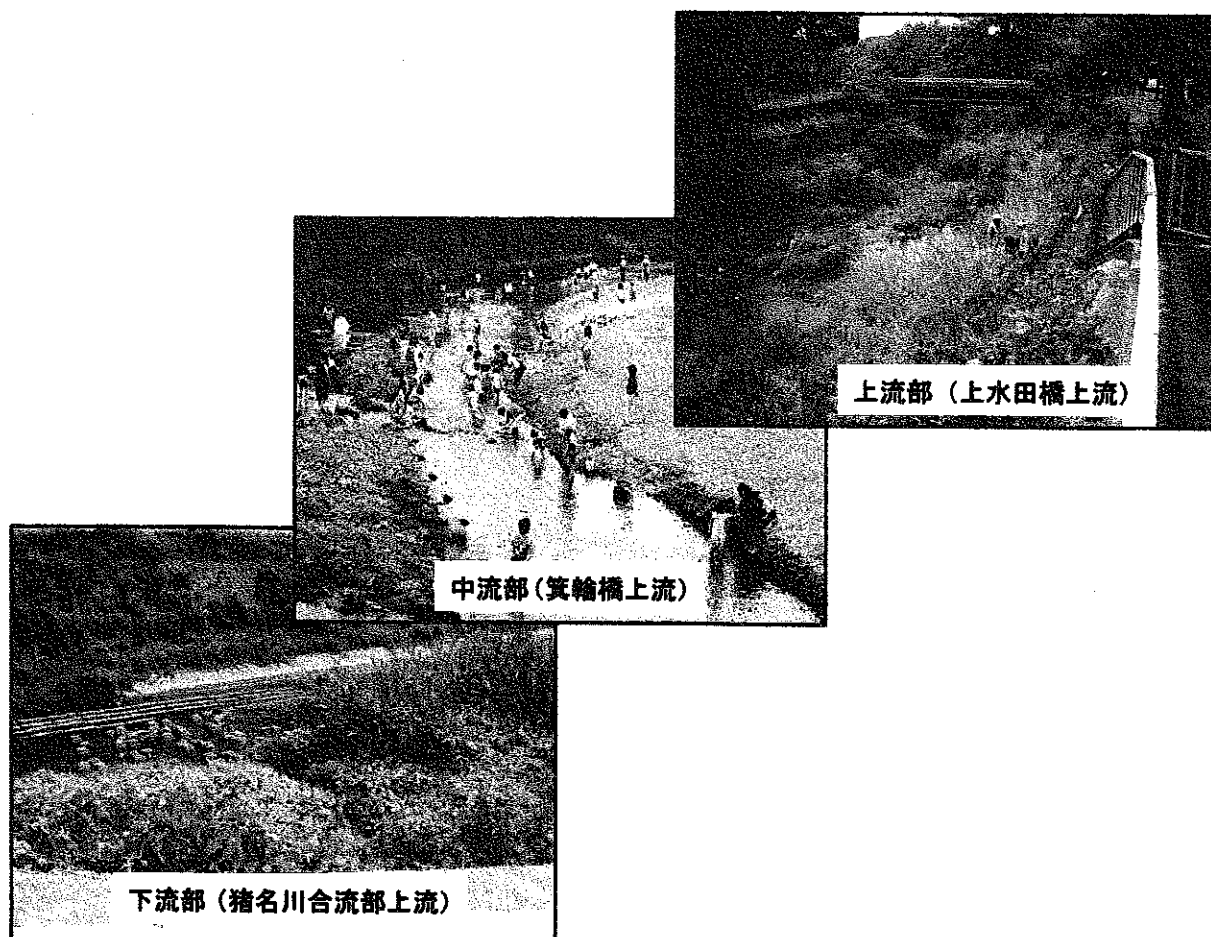
1. はじめに

千里川の環境はこの数十年で激変している。50 歳代以上の方は、まだきれいであった川で水浴びや魚とりをして遊んだ経験がある人も多いであろう。しかしながら千里川をはじめとする都市河川は、高度経済成長時代に入ると年々水質が悪化し、1970 年代になるとどぶ川に近い状態になった。川に住む生き物たちも減少し、子どもたちも川で遊ぶことがほとんどなくなってしまった。

その後、下水道の普及とともに汚水が川に直接垂れ流されることがなくなり、透明度も増し、BOD（生物化学的酸素要求量）などの水質指標数値も良くなっており、汚濁については比較的改善されているといえよう。また市民の清掃活動等も活発に行われ、千里川への関心も高まりつつある。

しかし、一方で堤防は土からコンクリート擁壁^{ようへき}とフェンスにかわってしまい、一部を除いて川に下りることができなくなってしまった。また河道内でも床固工^{とこがためこう}などができ、生き物の移動が阻害されている

そのような環境の変化を踏まえ、今年度の生き物調査は千里川の魚をテーマとした。果たして川の魚たちは水がきれいであった時代にまで回復しているのだろうか、もしくは水質と同様には回復していないのだろうか？

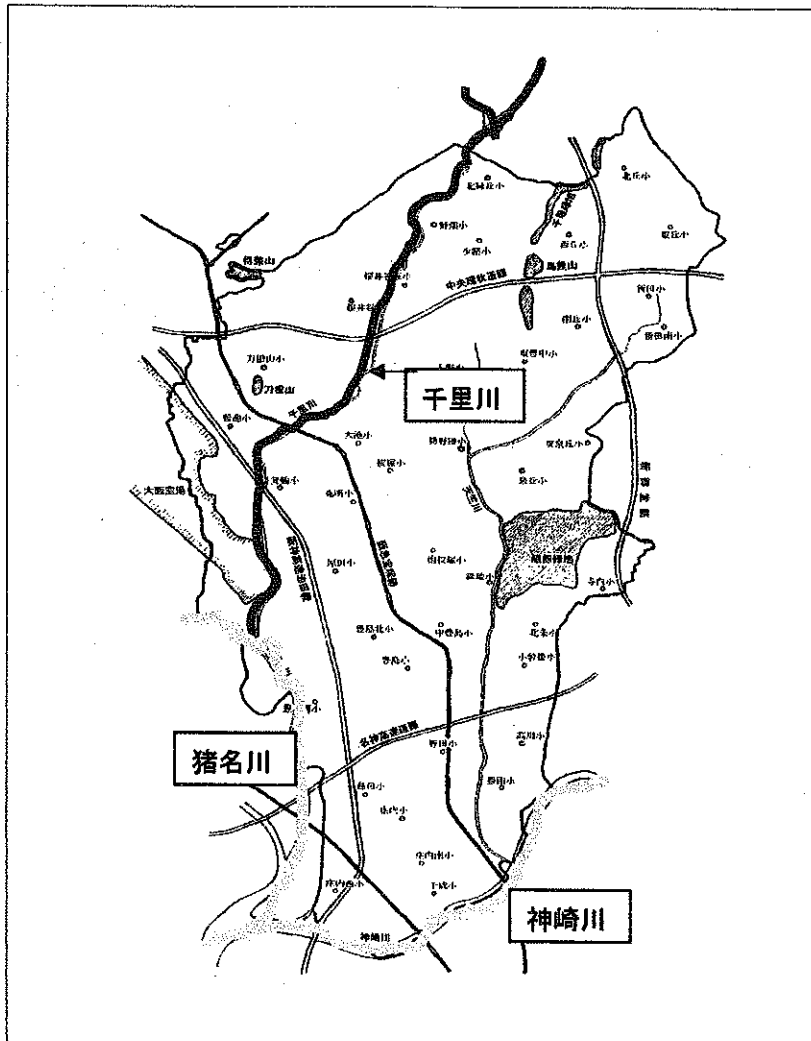


2. 千里川の概要

千里川は箕面市白鳥の山中に発し、豊中市北部の北緑丘から南西方向に流下、大阪（伊丹）空港の南方・豊中市利倉西で猪名川左岸に注ぐ一級河川で、大阪府池田土木事務所が管理をおこなっている。幹川延長は10.7km（豊中市部7.5km）である。

箕輪付近から上流は丘陵地を流れ、両岸には段丘地形が発達している。流路は蛇行が激しく、頻繁に氾濫を繰り返した川であり、近年では1967年（昭和42年）7月の集中豪雨で玉井町左岸側ほか10箇所が決壊し、家屋の全壊・流失が25戸あったほか約24,000戸が浸水、人的被害も発生した。その後、野畑地区、勝部地区では河道がショートカットされ、堤防のかさ上げが行われてほぼ現在の姿となっている。

付近には川底で取れる粘土を利用して土器を作った弥生時代の遺跡もあり、太古より人々が居住し、利用していたことがうかがえる。現在の周辺の土地利用状況は、山間源流部は山林で、その下流の箕面市域は主に耕作地と住宅地、豊中市域は市街地化している。



図—1 千里川流域図

3. 調査方法

(1) 現地調査

現地調査は市内の3地点で実施とし、広報とよなか、ポスター、チラシ、インターネット等で広く参加者を募り、調査を行った。

調査地点の設定は、市内の上流部、中流部、下流部で安全に流路に近づくことができ、環境が比較的多様な地点として抽出した。

参加者は第1回、第2回は5才以上の子どもから大人までとしたが、第3回は下流部で流量の大きな地点のため18才以上とした。

① 調査地点及び調査日

地点A 上水田橋上流(上流部)

2007年6月16日9:30~12:00(調査者:子ども12人・大人23人計35人)

地点B 箕輪橋上流(中流部)

2007年7月21日9:30~12:00(調査者:子ども46人・大人41人計87人)

地点C 猪名川合流部上流(下流部)

2007年9月19日9:30~12:00(調査者:大人15人)

② 調査方法

おもにタモ網、手網を用いて捕獲し、補助的に投網、モンドリ(セルビン)を用いた。捕獲した魚は種毎に捕獲数、体長を記録した後にその場で放流した。

なお捕獲調査の前に参加者に参考資料を配布し、河川環境や注意事項等の説明を行った。調査終了時には、調査結果のまとめを説明し、子どもたちには調査地点と調査の様子を描いてもらった。



投網



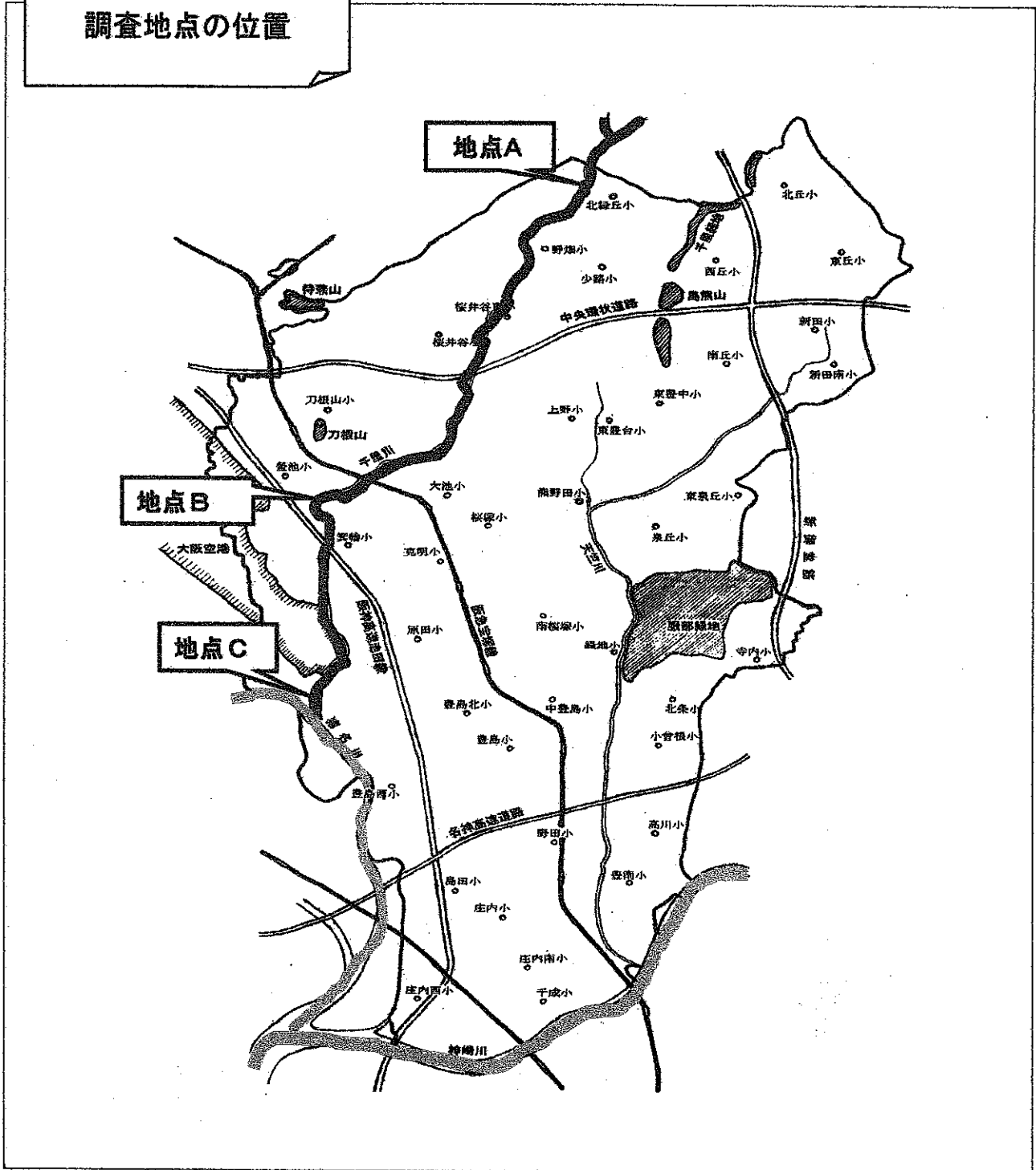
モンドリ

(2) 資料調査

千里川における過去の生物調査関係報告書や千里川の生物や水質を記載した関係資料等を調べ、確認魚類の抽出を行い、今回の調査結果と比較検討した。

また、周辺河川における資料も同様に調査した。

調査地点の位置



図—2 現地調査地点位置

4. 調査結果

(1) 現地調査結果

① 調査地点概要

地点A 上水田橋上流(上流部)

本地点は箕面市との市境近くで豊中市域の上流部にあたる。周辺には団地等の住宅地が隣接する。

護岸はコンクリートブロック掘込み護岸*で、上流側に床固工**^{とこがためこう}がある。床固工には魚道が設置されているが幅が狭い・下端が浅い水たたき部***上にある等の理由でほとんど機能していないと考えられる。

岸寄りには砂が堆積し、背の高い草や樹木が茂っている。

河道は瀬での水深約5cm、底質は砂礫、淵部^{されき}での水深は約130cm、底質は砂泥^{ふち}〜泥、一部で硫化水素臭があったことから、貧酸素状態のところもあると考えられる。



上流方向



下流方向

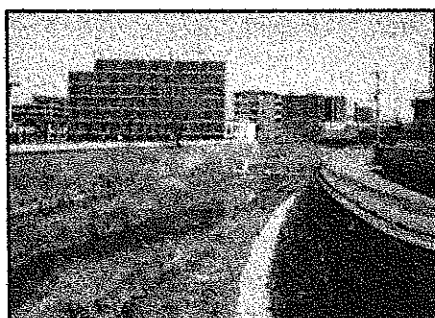
地点B 中流部箕輪橋上流(中流部)

本地点は阪急宝塚線のやや下流で豊中市域の中流部にあたる。周辺は住宅地である。

護岸はコンクリートブロック掘込み護岸で、下流側にやや低い床固工がある(魚道なし)。

岸寄りには砂が堆積しているが、上流地点と違って頻繁に草刈りがおこなわれるため、裸地や背の低い草が多い。

ところどころに十字ブロックが敷かれている。瀬での水深約5cm、底質は砂礫、淵部での水深は約80cm、底質は砂泥である。



上流方向



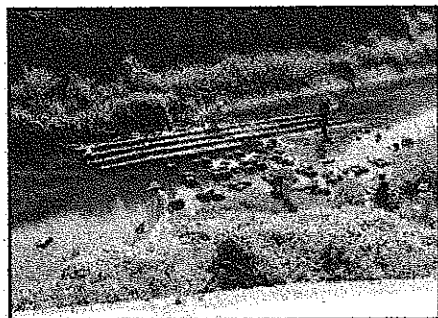
下流方向

地点C 猪名川合流部上流(下流部)

本地点は猪名川への合流部の直上流で、千里川の下流端にあたる。周辺はおもに下水処理場と工場である。

コンクリートブロックを貼った堤防があり、ブロック護床・ブロック護岸がある。岸寄りには砂が堆積し背の低い草や背の高い草がみられる。

瀬での水深約 5 cm、底質は砂礫、淵部での水深は約 100cm、底質は砂礫～砂で泥っぽくない。



調査地点



調査風景

② 調査結果

3 地点の現地調査の結果、9 科 19 種の魚類が確認された。地点別では、地点Aで 10 種、地点Bでは 9 種、地点Cでは 13 種が確認された。

いずれの地点でも捕獲あるいは目視確認された種はコイ、ギンブナ、オイカワ、ドジョウ、オオクチバスであった。うちギンブナ、オイカワ、ドジョウはすべての地点で捕獲されている。

これらのうち、オイカワはどの地点でも比較的多く捕獲され、豊中市市域全体の千里川の優占種といつてよいだろう。また、上・中流域の淵部に生息するカワムツは確認されなかった。

確認種のうち、5 種が外来種で、総確認魚種のうち 26%にあたる。外来種のなかでもカダヤシ、ブルーギル、オオクチバスは外来生物法で「特定外来生物」に指定されている(特定外来生物は飼育・運搬・販売等が禁止)。

またドジョウ、メダカ、ウキゴリ、コウライモロコ、ドンコは大阪府レッドデータブック記載種である。その中でもドジョウ、メダカ、ウキゴリは絶滅の危機に瀕する度合いが高く、絶滅危惧Ⅱ類に指定されている。

なお、魚類以外の水生生物では、ミナミヌマエビとハグロトンボ幼虫が多く確認された。

*用語解説は巻末にあります。

表一 千里川現地調査魚類確認種

	科	種名	全体	各調査地点			備考
				地点A	地点B	地点C	
1	コイ	コイ	○	○	(○)	(○)	
2		ギンブナ	○	○	○	○	
3		キンギョ*	○		○		
4		フナ属の一種*	○	○			
5		オイカワ	○	○	○	○	
6		モツゴ	○		○	○	
7		カマツカ	(○)		(○)		府要注目
8		コウライモロコ	○		○		府要注目
9	ドジョウ	ドジョウ	○	○	○	○	府絶滅危惧Ⅱ類
10	ナマズ	ナマズ	(○)	(○)		(○)	
11	カダヤシ	カダヤシ	○			○	特定外来生物
12		グッピー	○		○		外来種
13	メダカ	メダカ	○	○			府絶滅危惧Ⅱ類
14	タウナギ	タウナギ	○			○	外来種
15	サンフィッシュ	ブルーギル	○	○		○	特定外来生物
16		オオクチバス	○	○	○	(○)	特定外来生物
17	ボラ	ボラ	○			○	汽水魚
18	ハゼ	ドンコ	○	○			府要注目
19		ウキゴリ	○			○	府絶滅危惧Ⅱ類
20		カワヨシノボリ	○			○	
21		トウヨシノボリ	○	○			
9科			19種	10種	9種	13種	

(○)は目視による確認

*キンギョ、フナ属の一種はギンブナと同種とみることができるとため、種数には加えない。

備考欄の「府～」は「大阪府レッドデータブック」記載種

備考欄の「特定外来生物」は外来生物法で飼育・運搬・販売等が禁止

大阪府レッドデータブック カテゴリー

◆**絶滅** 大阪府ではすでに絶滅したと考えられる種

◆**絶滅危惧Ⅰ類** 絶滅の危機に瀕している種

現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、存続が困難なもの。

◆**絶滅危惧Ⅱ類** 絶滅の危険が増大している種

現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のランクに移行することが確実と考えられるもの。

◆**準絶滅危惧** 存続基盤が脆弱な種

現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの。

◆**情報不足** 評価するだけの情報が不足している種

情報が得られ次第「準絶滅危惧」またはそれ以上のランクに移行する可能性を有するが現時点ではカテゴリーを評価するに足る情報が不足している種。

◆**要注目** 注目を要する種

「絶滅」「絶滅危惧」「準絶滅危惧」「情報不足」の区分以外で府において保護上重要なもの。

(2) 文献調査結果

① 千里川の水質の推移

豊中市では1974年(昭和49年)より上流(落合橋)、中流(月見橋)、下流(原田大橋)で水質測定を行っている。代表的な水質指標はBOD(生物化学的酸素要求量)で、その数値が高いほど汚濁が進んでいる(大まかには10mg/l以上でほとんどの魚は住めず、清流な流れを好む魚の生息には2mg/l以下に保つ必要がある)。BODの経年変化をみると、1970年代は非常に汚濁しており、特に中流部で顕著であった。1980年代になると、下水道の普及とともに値が低くなり、1985年以降はいずれの地点もほぼ2mg/l以下で推移している。

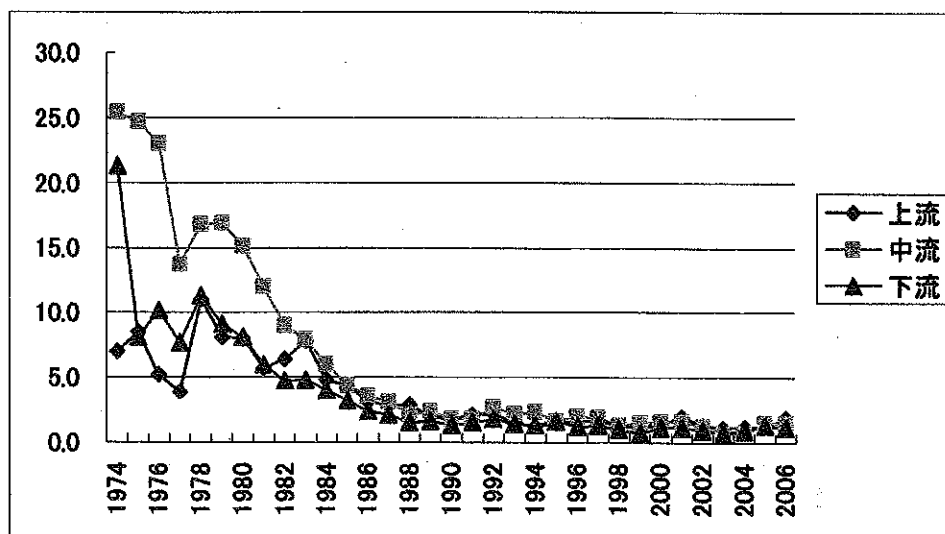


図-3 BOD経年変化 (単位: mg/l)

② 千里川の魚類資料調査結果

千里川の魚類調査記録は、1980年(昭和55年)からあり、それらを整理して一覧表とした(表-2)。

過去の記録をまとめると、千里川では11科25種の魚類が記録されている。

これらのうち、コウライモロコ、グッピー、タウナギ、トウヨシノボリは過去の資料では記録がなく、今回の現地調査が初記録である。

外来魚は7種で総確認種の28%に相当する。

一方、大阪府レッドデータブックに記載されている種は8種で総確認種数の32%に相当する。

表-2 千里川既存資料魚類確認種

No.	科	種名	既存文献 総計	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	今回調査	備考	
				?	1980	1984	1985	1990-91	1991	2001	2004			
1	ウナギ	ウナギ	○	○									回遊魚	
2	コイ	コイ	○		○	○		○		○	○	○		
3		ギンブナ	○			○	○	○	○	○	○	○		
4		キンギョ*	○								○		○	
5		フナ属の一種*	○		○								○	
6		タイリクバラタナゴ	○					○						外来種
7		カワムツ	○			○					○	○		
8		オイカワ	○			○	○	○	○	○	○	○	○	
9		モツゴ	○			○		○	○	○	○		○	
10		タモロコ	○			○		○		○	○			府要注目
11		カマツカ	○					○	○	○	○	○	(○)	府要注目
12		コウライモロコ**											○	府要注目
13		スゴモロコ**	○								○			
14		イトモロコ**	○								○			府準絶滅危惧
15		ニゴイ***	○						○	○	○	○		
16		ドジョウ	○								○	○	○	府絶滅危惧Ⅱ類
17	ナマズ	ギギ	○							○			府準絶滅危惧	
18		ナマズ	○					○		○	○	(○)		
19	カダヤシ	カダヤシ	○					○				○	特定外来生物	
20		グッピー										○	外来種	
21	メダカ	メダカ	○					○				○	府絶滅危惧Ⅱ類	
22	タウナギ	タウナギ										○	外来種	
23	サンフッシュ	ブルーギル	○					○	○	○	○	○	特定外来生物	
24		オオクチバス	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	特定外来生物
25	ボラ	ボラ	○					○		○		○	汽水魚	
26	ハゼ	ドンコ	○							○		○	府要注目	
27		ウキゴリ	○							○	○	○	府絶滅危惧Ⅱ類	
28		マハゼ	○							○			汽水魚	
29		カワヨシノボリ	○							○	○	○		
30		トウヨシノボリ											○	
31		ヨシノボリ属の一種				○		○						
32	タイワンドジョウ	カムルチー	○					○	○	○			外来種	
11科 29種			25種	1種	3種	8種	3種	16種	8種	21種	13種	19種		

(○)は目視による確認

太字は今回初確認

*キンギョ、フナ属の一種はギンブナと同種とみることができるともみることが出来るため、ギンブナがいる場合は種数には加えない。

**スゴモロコ、イトモロコはコウライモロコと同一種混同の可能性ある。

***ニゴイはコウライニゴイの可能性ある。

備考欄の「府～」は「大阪府レッドデータブック」記載種

備考欄の「特定外来生物」は外来生物法で飼育・運搬・販売等が禁止

③ 近隣河川の魚類資料調査結果

千里川と同様に猪名川に合流し、河川規模の比較的同規模の箕面川と、流域本川である猪名川の魚類調査記録をまとめた(表-3)。箕面川については、比較的古い記録が存在するため、1979年(昭和54年)以前の記録と1980年(昭和55年)以降の記録に分けた。猪名川の調査範囲は軍行橋から阪急宝塚線鉄橋付近で、千里川合流部周辺は含まれていない。

箕面川においては1979年以前では15種、1980年以降では13種確認されている。

一方、猪名川は河川規模が大きく多様な環境を有するため、36種もの魚類が確認されている。

表-3 近隣河川既存資料魚類確認種

	科	種名	千里川	箕面川	箕面川	猪名川	
				1979以前	1980以降	1999-07	
1	ウナギ	ウナギ	○	○		○	
2	サケ	アマゴ		○	○	○	
3		ニジマス				○	
4	キュウリウオ	アユ				○	
5	コイ	コイ	○	○	○	○	
6		ギンブナ	○		○		
7		キンギョ*	○		○		
8		フナ属の一種*	○	○		○	
9		ゲンゴロウブナ				○	
10		タイリクバラタナゴ	○	○		○	
11		ヤリタナゴ				○	
12		アブラボテ				○	
13		カワムツ	○	○	○	○	
14		ヌマムツ				○	
15		ハス				○	
16		オイカワ	○	○	○	○	
17		アブラハヤ				○	
18		ウグイ		○			
19		モツゴ	○	○		○	
20		ムギツク			○	○	
21		タモロコ	○			○	
22		カワヒガイ				○	
23		カマツカ	○			○	
24		コウライモロコ**	○			○	
25		スゴモロコ**	○				
26		イトモロコ**	○			○	
27		ニゴイ***	○			○	
28		ドジョウ	ドジョウ	○	○	○	○
29			スジシマドジョウ				○
30	シマドジョウ			○		○	
31	ナマズ	ギギ	○			○	
32		ビワコオオナマズ				○	
33		ナマズ	○			○	
34	カダヤシ	カダヤシ	○				
35		グッピー	○		○		
36	メダカ	メダカ****	○	○	○	○	
37	タウナギ	タウナギ	○				
38	サンツシュ	ブルーギル	○		○	○	
39		オオクチバス	○		○	○	
40	ボラ	ボラ	○				
41	ハゼ	ドンコ	○	○	○	○	
42		ウキゴリ	○				
43		マハゼ	○				
44		カワヨシノボリ	○	○	○	○	
45		トウヨシノボリ	○			○	
46		ヨシノボリ属の一種*****	○	○			
47	カジカ	カジカ属の一種				○	
48	タイワドジョウ	カムルチー	○			○	
	14科	45種	29種	15種	13種	36種	

(○)は目視による確認

*キンギョ、フナ属の一種はギンブナと同種とみることができるため、ギンブナがいる場合は種数には加え

**スゴモロコ、イトモロコはコウライモロコと同一種混同の可能性はある。

***ニゴイはコウライニゴイの可能性はある。

****箕面川のメダカはヒメダカ

*****ヨシノボリ属の一種はトウヨシノボリと同種の可能性はあるため、総計の種数には加えない。

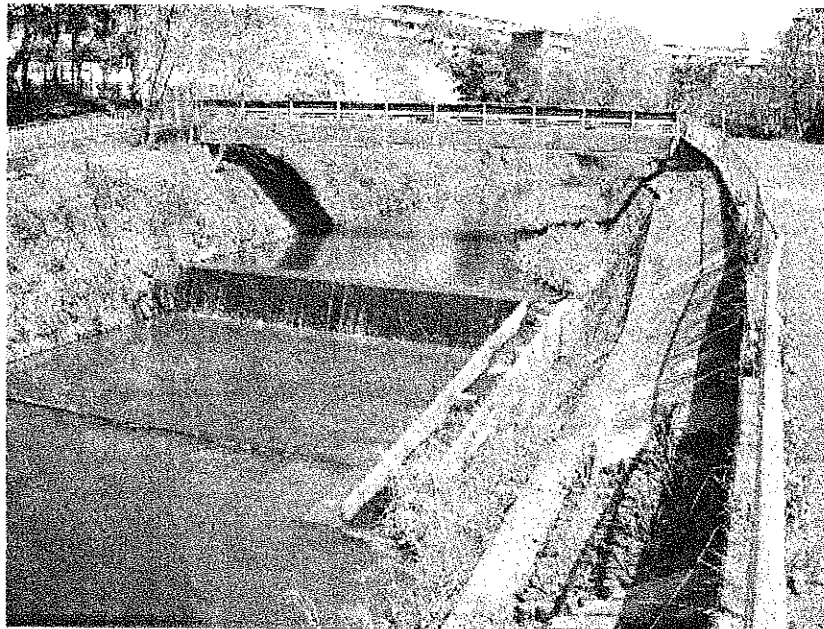
5. 分析と考察

(1) 調査地点間の比較

調査地点間の確認魚種に大きな差はなかったが、比較的緩やかな流れを好むナマズ、メダカ、ブルーギル、トウヨシノボリが上流側の地点Aで確認され地点Bでは確認されず、逆に流れのあるところを好むカマツカ、コウライモロコが地点Bで確認され地点Aでは確認されなかった。その理由としては、地点Aは床固工^{とこがためこう}に挟まれた区間で比較的傾斜が緩く、淀みが多い環境であることが反映していると考えられる。

地点Cではボラやウキゴリといった汽水域（海水交じりの水）や汽水域に近いところを主生息地とする種が出現し、猪名川との生息魚の交流が多いことを物語っている。

また、それらが上流域で確認されていないのは、各所にある横断構造物（床固工など）により遡上が阻害されている可能性がある。



地点Aの床固工

(2) 経年の比較

各資料の調査結果は調査地点や調査方法等が統一されていないので、単純には比較できないが、水質の向上と連動して1990年代以降は確認魚種が増える傾向にある。

(3) 外来種と大阪府レッドデータブック記載種の動向

確認された外来種のうち、特定外来種のおオクチバスは1980年(昭和55年)以降、ブルーギルは1990年(平成2年)以降すべての資料で記録されており、完全に定着している。同じく特定外来種のカダヤシは今回と既存1資料のみの確認で、定着しているかどうかは不明である。

その他の外来種も連続して確認されている種はなく、定着しているか不明である。

今回初めて確認されたグッピーは熱帯魚で飼育個体が放流されたものではあるが、成魚と稚魚が同時に捕獲され、千里川で繁殖した可能性が高い。温暖化の影響で冬季の水温がこれまでより上昇すると、越冬して定着する可能性があり、生態的に競合するメダカへの脅威となるおそれがある。

一方、大阪府レッドデータブック記載種のうち、カマツカは1990年(平成2年)以降、ドジョウとウキゴリは2001年(平成13年)以降コンスタントに確認されており、定着していると考えられる。特にドジョウは今回の調査では全地点で確認されており、広く分布していると考えられる。モロコ類、ギギ、メダカ、ドンコは比較的偶発的な確認で、必ずしも定着しているかは定かでない。

(4) 近隣河川の比較

① 箕面川

箕面川については、1979年以前は15種、1980年以降は13種と種数に大きな変化はないが、在来種であるウグイ、シマドジョウなどがいなくなり、新たにブルーギルやおオクチバスなどが現れるなど、質的な変化がおこっている。

千里川では近年25種が確認されているのに比べ、箕面川では13種にとどまっている。その要因としては、箕面川の下流部では水位が下がり、伏流(地上の表流水がない)状態にあることが多く、猪名川本川から魚類の遡上^{そじょう}が断たれていることが考えられる。

② 猪名川

猪名川では先に述べたとおり36種もの魚類が確認されている。上流域のみに生息するアマゴや水量のある瀬で食餌するアユ、大型二枚貝の住むところのみに生息するヤリタナゴなどのタナゴ類などもみられ、多様な環境が備わっていることがわかる。千里川合流部付近まで範囲を広げるとボラやハゼ類など汽水(海水混じりの水)性の魚も加わるはずで、もっと多くの種があげられると考えられる。

6. まとめ

今回、資料調査を行ったことによって、水質が測定され始めた1970年代は非常に水質が悪く、ほとんど魚が住めないような状態であることがわかった。魚類調査資料については1980年以降の記録しかなく、その頃は10種に満たない確認であったが、水質の向上とともに増加し、現在ではおおむね20種以上の魚種が生息していると考えられる。

しかし優占して生息する魚はオイカワで、河川改修で環境が単純化した場所でも生活できる魚である。一方、自然豊かな淵がある河川ではよく見られるカワムツは今回の調査では確認できなかった。カワムツは猪名川では多く生息し、千里川でも上流の箕面市域では生息すると考えられるため、環境さえ整えばいずれ豊中市域の千里川でも定着するはずである。

現在、千里川には上下流への移動を阻害している床固工などの多くの横断工作物が設置されており、その多くは魚やエビなどの水生生物の上下流への移動を阻害していると考えられる(一部魚道が設けられてはいるが今では全く機能していないものが多い)。今後はその阻害の実態を把握するとともに、それらが無理なく移動できるように改良されることが望まれる。

そして、川は水生生物のみならず、多くの生き物たちのコリドー(回廊)としての大きな役割をもっているため、水辺に多様な環境を保持することも肝要である。当自然部会では、2005年7月に箕輪橋から上流薬500mまでの河原の植物調査を実施し、わずかな距離であったにもかかわらず81種がみられ、カラスムギ、ジュズダマ、オナモミなど、うち11種が地点独自種であった。しかしながら今回の調査時には河原の植生が広範囲に根もとから刈込まれており、まことに残念であった。今後は生き物に配慮した草刈りや管理を施すよう、強くお願いしたい。

また、豊中市環境基本計画と〈アジェンダ21〉の共通理念のひとつに、「楽しみは川辺お散歩 出会い多く 緑いっぱい やすらぎのまち」とあるが、川は緑・自然と触れ合える最良の場所と考えられる。今回の調査では、多くの子どもたちが保護者と共に参加協力した。感想にあるように、川に入って遊ぶと時間を忘れるくらい楽しい。そして、生き物を捕まえた瞬間の喜びの体験はとて貴重である。これからは市民と行政力を合わせて、多様な生物環境をめざしたよりよい川づくりをめざしたい。そして“川ガキ”がたっぷりの豊中にしたいものである。

用語解説

* 掘込み護岸

周辺の地盤が高く、堤防を設ける必要のない河川区域で、流水による浸食から河岸守るために設けられた構造物（護岸）で、千里川では地点B付近から上流は掘込み護岸となっている。

* 床固工

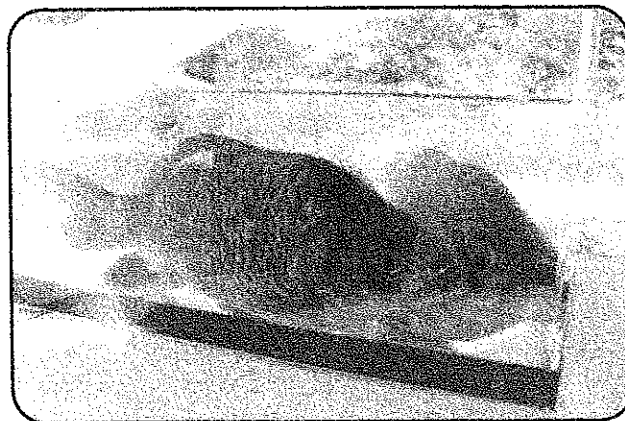
川の傾きを緩くして水の勢いを弱めたり、土砂流下による護岸などの侵食を防ぐため、で河川を横断して設けられる構造物のこと。

* 水たたき部

床固工や堰堤などの直下が、流下する水の勢いで深掘れするのを防ぐためにコンクリートを貼った部分のこと。

参考文献

- ・ 豊中市市史編さん委員会（1999）「新修 豊中市史 第3巻 自然」
- ・ 豊中市立教育研究所（1993）「理科教育に関する研究」
- ・ 豊中市（1985）「豊中市公共用水域生物相調査報告書」
- ・ 淡水生物研究所（2001）「一級河川千里川外多自然型護岸検討委託報告書」
- ・ 淡水生物研究所（2004）「一級河川千里川外多自然型護岸検討委託報告書」
- ・ 豊中市（1974～2007）「公共用水域水質調査結果報告」



千里川魚類調べ

- * 上・中・下流で住んでいる魚が違うでしょうか？
- * 瀬と淵、石、泥、水草など環境の違いで住んでいる生き物が違うでしょうか？
- * 護岸や床固工など、人工構造物の役割は何でしょうか？



(写真はオイカワ)

NPO法人とよなか市民環境会議
アジェンダ21 自然部会

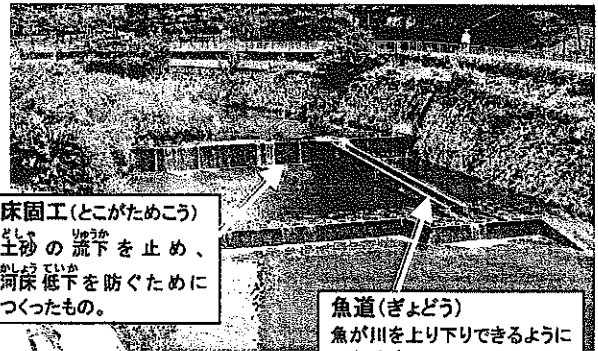
川のかたち

淵(ふち)

流れがゆるい深み。流れがカーブするところに多い。底は砂や泥が多い。

瀬(せ)

流れがはやく波立っている。比較的大きな石がある。



床固工(とこがためこう)
土砂の流下を止め、河床低下を防ぐためにつくったもの。

魚道(ぎよどう)
魚が川を上り下りできるようにつくったもの。

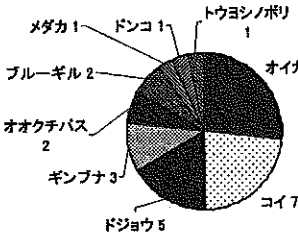
前回のあさらい



淵やよどみに多い魚
コイ・ギンナ・ナマス
オオクチバス・ブルーギル

瀬に多い魚
オイカワ

葦の根元に多い
ハグロトンボ(ヤゴ)・ミナミヌマエビ
魚の子ども



その他の生き物

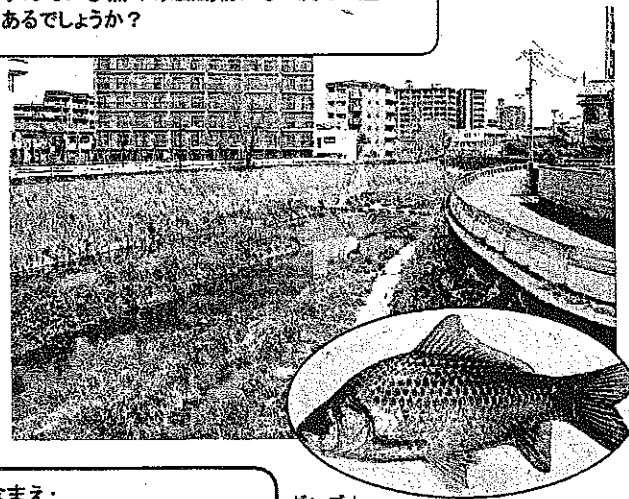
ハグロトンボ(ヤゴ)・ミナミヌマエビ
アメリカザリガニ・ナミウズムシ
マシジキ・カワニナ

つかまえた魚の数

(ほかにナマスもいました)

第2回 千里川魚類調べ and 夏の水生生物観察会

- * 前回(上流)と川の様子はどう違うでしょうか？
- * すんでいる魚や水生動物にも上流との違いがあるでしょうか？



なまえ:

ギンナ

NPO法人とよなか市民環境会議
アジェンダ21 自然部会
(この事業は豊中市の委託を受けて開催しています)

参加者募集チラシ

生き物調査・2007

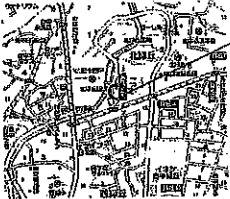
千里川魚類調べ

調査参加者募集！！

「楽しみは 川にお散歩 出会い多く 楽しいばいやすらぎのまち」
この短歌は、1999年豊中の豊中市環境基本計画と市民・事業者・行政の環境行動計画[豊中アジェンダ21]の共通目標理念です。その推進事業として、今年の生き物調査は、千里川上流域、中流域、下流域と、3回に分けて魚類調査を実施します。

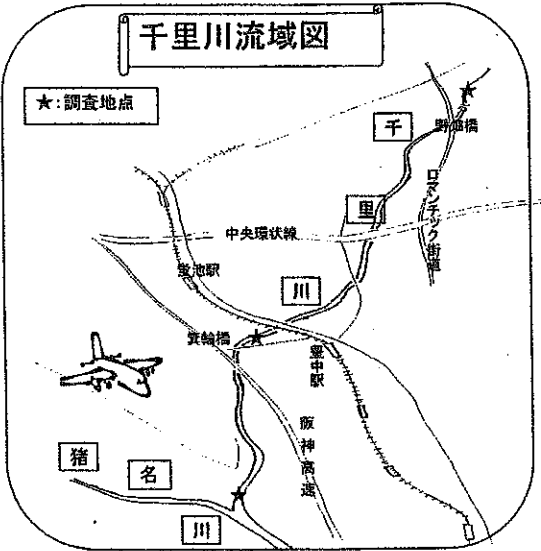
千里川には、オイカワ、フナ等がいます。
少なくなったカマツは見つかるでしょうか？
今回の調査は、観察会をかねて皆で楽しく行います。ご家族揃ってご参加ください。

とき: 2007年6月9日(土) 9:30~12:00
ところ: 千里川(集合 北線丘団地 阪急バスターミナル(地図参照))
対象: 5才以上の子ども(小学3年生以下は保護者同伴)からおとなまで 30人
持ち物・服装: 水にぬれてもよい服装(はきもの)、タオル、日よけ帽子、着替え等あれば、魚用あみなど
参加費: 無料 雨天中止
申し込み: 先着順 6月8日(金)までに アジェンダ21事務局へ
TEL: 6863-8792 FAX: 6863-8734



集合場所: 北線丘団地 阪急バスターミナル
(阪急豊中駅、モノレール豊原駅、千里中央駅から阪急バス「北線丘団地」行きもしくはは経由のバス乗車、「北線丘団地」下車)

主催・NPO法人とよなか市民環境会議
アジェンダ21 自然部会
(この事業は豊中市の委託を受けて開催しています)



調査記録 月 日 時間 天気 場所

川の流速: /m 川の水深: cm 淵の水深: cm

備考

生き物調査・2007

第2回 千里川魚類調べ and 夏の水生生物観察会

第1回の調査では、上流の魚類について調べました。
上流とは住む魚や生き物がちがっているのでしょうか？
流れのはやいところ・おそいところでは、どんなちがいがありますか？
水草や水生生物も調べましょう。



とき: 2007年7月21日(土) 9:30~12:00

ところ: 千里川中流域・箕輪橋~箕輪小橋

集合: 阪急豊中駅南口人工広場 9:30

定員: 40人 5才以上の子ども(小学3年生以下は保護者同伴)から大人まで

持ち物/服装: 水にぬれてもよい服装(はきもの)(着替えなど)、帽子、

タオル、飲み物、あれば網・バケツなど

参加費: 無料 ※雨天時7月28日(土)に延期

申込み: 先着順 7月19日(木)までに アジェンダ21事務局へ

TEL: 6863-8792 FAX: 6863-8734

主催: とよなか市民環境会議アジェンダ21

自然部会

(この事業は豊中市の委託を受けて開催しています)

生き物調査・2007

第3回 千里川魚類調べ

第1回の調査では上流、第2回は中流の調査を行いました。
今回は下流・猪名川合流部付近で調査します。
これまでと違った魚が見つかるでしょうか？



とき: 2007年9月19日(水) 9:30~12:00

ところ: 千里川下流域・猪名川合流部付近

集合: 現地(原田南2丁目、地図参照) 9:30 ※駐車場はありません

定員: 10人 18才以上

*今回は流れが速く水深が深い場所での調査のため、18才以上の方限定です。十分に注意して下さい。

持ち物/服装: 水にぬれてもよい服装(はきもの)(着替えなど)、帽子、タオル、飲み物、あれば網・バケツなど

参加費: 無料 ※雨天時中止

申込み: 先着順 9月14日(金)までに アジェンダ21事務局へ

TEL: 6863-8792 FAX: 6863-8734



主催: とよなか市民環境会議アジェンダ21 自然部会

(この事業は豊中市の委託を受けて開催しています)

調査スタッフの感想

3回の調査のうち1, 2回しか参加できませんでしたが、千里川にこれだけの魚がいるということがわかって嬉しくなりました。水質が以前に比べて良くなったことを現しているようです。しかし反面では、外来魚がたくさん見つかるということも驚きです。一度入ってしまったものはどうすることもできませんから、在来魚と外来魚の共存をはかることしかないでしょう。それには河原の整備に配慮してもらい、また護岸改良などによって、小魚がかくれるところを多く作ってやることだと思います。(岡 恒夫)

千里川の上、中、下流の3ヶ所で行われた水生生物の調査は、はじめての経験でしたが、魚など色々な生物が予想以上に多かったので、うれしく思いました。

親子連れの市民の皆さん方と一緒に川にはいって、生き物を捕らえたり、投網に入った魚を見たり、観察したりするのは、とても楽しかったし、それ等の生物について詳しく説明を聞くことが出来、大変勉強になりました。(斎藤 明)

千里川での調査は上、中、下流で、3回行ったが、自分にとっては調査と云いながら本心は、水につかって遊び心で参加している感じでとても楽しいものであった。

昔、北上川でフナやハヤ、オイカワをミミズの餌で釣っていたのを思いだし、家の裏の小川でドジョウなどを採っていた。その当時採れたものはリリースはしなかった。

ところで、調査では毎回ヤゴやエビは沢山いたが、全体に魚類は種類も少なく、魚体も小さいのは仕方がない事と思う。水量が少ないことと、隠れる場所がないため育つ間がない。普段でもコサギなどに狙われやすいからだ。

モンドリには入っていなかったのが餌や用具に一工夫が必要なようだ。

一方子ども達は調査に参加という事を忘れて、親子ともども夢中で網を入れのぞき込む姿は皆生き生きとしていた。野外の活動は本当に楽しい。(三宅 史郎)

第1回調査日の6月9日は前日の天候が雨の為中止し、一週間のぼして16日に開催できました。雨が降ると僅かの時間で驚くほどの水量になってしまう千里川。天候が1番気がかりな今年度の生き物調査でしたが、スタートから日程変更となってしまいました。後の2回も心配しましたが、天気にも恵まれ計画通りの日に開催し、また事故なく無事終了できて本当によかったと思っています。カワムツが見つければと期待していましたが、居なくて残念。でもトノサマガエルとヌマガエルに出会えてハッピーでした。(上田 峯子)

調査協力者の感想 (地点A 上水田橋上流 07. 6. 16)

- ・ 川の中にいろいろな生き物がいることを知れて勉強になった。大きなギンフナにはびっくりでした。うちの子は魚類がとれなかったのでもっとふてくされていましたが、これからの良い勉強につながればと思います。ありがとうございました。(上前佳世)
- ・ おもしろいと思った点 魚をターゲットにしている、投網を実演してもらえた、最後にお絵かきコーナーがあった。(子どもに人気)
- ・ 楽しく魚類がこんな川に生きている確認することが楽しかった。子供はまだ4歳なのでもう少し大きくなったら良いときと思う。ご苦労様でした。有難うございました。(木村文康)
- ・ トンボの幼虫、ザリガニがとれて子供たちにとって楽しかったと思います。大人にとっては避暑するところがなく少し疲れました。(小林)
- ・ いろいろな魚やアメンボやえびなど取れて楽しかった。川は冷たくて気持ちよかった。投げ網は初めて見てフナが取れたときは驚いた。(つかりゆうのすけ)
- ・ 川の中に入って魚類などの生き物を捕まえる機会が少ない中、貴重な体験ができたとうれしく思います。レクチャーは子どもには難しいようでじっと聞けなかったようですが魚捕りには熱中して楽しんでいました。ありがとうございました。(上前慎治)

調査協力者の感想 (地点B 箕輪橋上流 07. 7. 21)

- ・ 魚をつかまえるのは楽しかったけど、エビしか捕まえられなかった。豊中の川には色々な生物がいるのには、おどろきました。
- ・ ぼくは川で魚をつかまえたのは、はじめてだけど、よくとれました。いろいろな魚がいて、たのしかったです。またきます。(小柴ゆうすけ)
- ・ ドジョウがつかまえてよかった。(いしいけいじろう)
- ・ たのしかった。ざりがにがたくさんとれた。たまにやごもいた。歩くのがつかれた。(なるたちあき)
- ・ ぼくはいつもつれなかったけど、しゅうごうで、集まったときはすごい魚つれていて、ぼくは、みんないれればすごいつれるのがわかった。
- ・ えびとかかまがとれてたのしかったです。(中山かずや)
- ・ えびだけとれたけど、もっとつかまえたかった(あきもとたくま)
- ・ 大きいいしのしたにえびがたくさんいた。すごく大きいいしにはドジョウもいた。エビはいっぱいつかまえた。
- ・ せんり川にきていろんなせいぶつやさかながいっぱいいました。またきたいです。いつも大変お世話になります。本日も楽しく過ごせました。(レイモンド天樹)
- ・ えびがはじめてつかまえてよかったね。とてもたのしんでいました。(レイモンド)
- ・ えびがすごくいっぱいとれた。でも魚がとれなくてざんねんだった。弟は4ひきもとれたのにぼくは0ひき。くやしかった。でも楽しかった。
- ・ 今日子供たちが川で色々な生き物とふれ合い、楽しく過ごせました。(田澤利美)
- ・ ぼくはえびをあめんぼがとれてうれしかった。(ふじもとしょうすけ)
- ・ 水がつめたかった。えびがとれてうれしかった。(いとうけんしん)

- ・ いろいろさかながいました。ザリガニもいました。ヤゴをつかまえました
- ・ 千里川には毎週のように遊びに来ています。来る度にいろんな生き物がいてびっくりさせられます。カメ、メダカ、金魚、ザリガニと家につってきた生き物を飼っています。子供達といっしょに川に入ってとても楽しい時間です。ありがとうございました。(藪内弘子)
- ・ いつもは川に入ってはダメといわれていることもあり、今日はとても楽しそうにエビやアメンボをつかまえていました。もって帰れないのが少し残念そうでしたが、きてよかったです。来年もきっと参加したいというと思います。(飯田唯人)
- ・ 魚がとれなくてざんねんだった。(みねかずき)
- ・ ぼくは魚はとれなかったけど、おもしろかった。えびはつかまえられたのでよかったです。(浅沼泰成)
- ・ なんにもとれなかったけどおもしろかった。水のふかさが1mくらいの所もあった。ながれがおそい所の方が魚がいっぱいた。
- ・ 川遊び、魚調べを家族で行こうと思っていてもなかなか実行できないので、先生がついて魚や昆虫の種類をいろいろ教えて下さるイベントはとても楽しくためになりました。また参加したいです。(谷明美)
- ・ もっと魚がいっぱいとれると思っていたけれど、1匹もとれなかったのがざんねんでした。あみをなげてみたかった。(石原ゆうか)
- ・ いろいろな魚のことをわかれてよかったです。
- ・ 草のところをふんであみにアメンボが入ってうれしかった。
- ・ ザリガニをとったのがうれしかった。
- ・ さがすのがむずかしかったけど、とてもたのしくなりました。きてよかったです。いろいろな生き物がいておもしろかったです。
- ・ 川あそびがたのしかった。さかながいっぱいたこんなところきたのがはじめてでたのしかった。またやりたい。(あさりかりん)
- ・ 20種類以上のいきものがいてびっくりしました。つかまえたのはエビだけだけど楽しかったです。魚ははやくて捕まえられなかった。(前川咲里)
- ・ 今日ここにきてずっと魚をさがしてたけどつかまえられなくてくやしかったです。でもエビをたくさん取れてうれしかったです。(早川えり)
- ・ ドジョウとか魚を捕まえるのがたのしかった。へんな幼虫をつかまえてみせたらアブの幼虫と言っていた。(志賀英人)
- ・ しらないさかなやようちゅうがいっぱい見れて楽しかった。またやりたいなど思った。(清水)
- ・ いろいろな生き物がいた。いっぱいとれてよかったです。(山崎充輝)
- ・ かんたんにえびがとれたので面白かった様子です。参考になりました。ありがとうございました。(松本実咲)
- ・ おもしろかった。水の中にはいるサンダルを忘れた。
- ・ 楽しかった。ドジョウを触れてよかったです。いろいろな生き物がいることがわかった。わたしはあまりたくさんの生き物をつかまえたりみつけたりできなかった。

調査風景



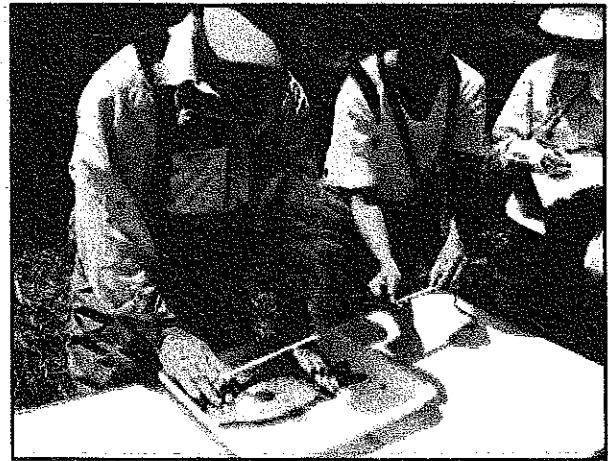
地点A 調査風景



地点B 調査風景



地点C 説明風景



測定風景



調査結果確認



投網指導

「千里川魚類調査とよなか・2007」協力者

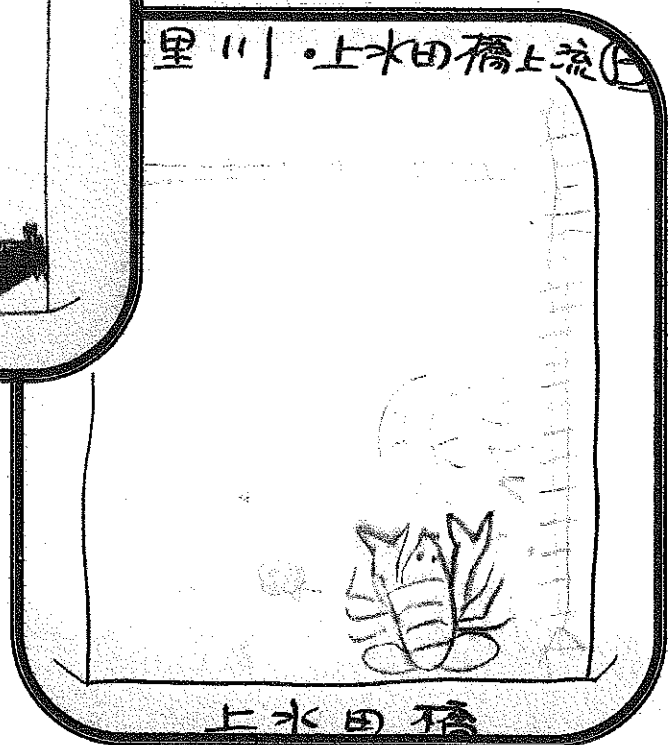
浅沼泰成、浅利果琳、秋本琢磨、秋本恵美、飯田唯人、飯田 衛、イシハラヒロシ、
イシハラユウカ、居川慶司郎、伊藤ケンシン、伊藤知永子、上田峯子、易 信子、
岡 恒夫、岡 秀子、片山マドカ、加藤 陸、加藤和子、加藤由梨、柿本修一、川並清忠、
岸田興次、草竹理央、桑島いつ枝、河野猪太夫、コバヤシハルキ、コバヤシリョウタ、
コバヤシタツオ、小柴佑介、小柳 一、斎藤 明、サカイブンタ、阪口ヒロカズ、
阪口カズヤ、佐々木忠弘、坂田比呂人、志賀秀人、篠崎秀成、篠崎早織、篠崎昌代、
嶋田千晶、嶋田 弥、清水陸生、上前ユウ、上前サトシ、上前サトシ、上前カヨ、
上前シンジ、関ユミコ、関トシコ、高塚カズヨシ、高塚ナナコ、高塚モトカズ、
谷リョウスケ、谷シュンスケ、谷マナミ、谷アケミ、谷ダイスケ、田澤拓也、田澤和樹、
田澤利美、塚マサノリ、塚リュウノスケ、筒竹國輔、中山和哉、中山陽子、中村優海、
中村明子、早川絵里、藤井諒輔、藤井千帆、藤岡秀行、前川咲里、松岡英朗、木村文康、
水谷徳子、水野育成、嶺 直樹、嶺 和樹、嶺 恵理香、三宅史郎、宮田 健、村上 陽、
村上浩二、村上美幸、山口大地、山口佑太、山口みゆき、山口雄翔、山口晃司、山口 壽、
山崎充輝、山崎千晶、山田 一、ヤブウチヒロコ、ヤブウチナオタカ、ヤブウチノブタカ、
藪本圭一、ユウゲンヒデトシ、湯脇かずま、湯脇たくま、湯脇光洋、吉田千恵、
ヨシモトダイゴ、レイモンド龍樹、レイモンド天樹、レイモンド貴子、ワカオジン

(敬称略)

計 108 名



調査時に子どもたちが描いた絵です



本事業は豊中市の委託を受けています。

NPO 法人 とよなか市民環境会議アジェンダ21

〒561-0804 豊中市曾根南町 1-4-3 環境情報サロン内

TEL : 6863-8792 FAX : 6863-8734

E-Mail : <http://www5b.biglobe.ne.jp/~toyonaka/>